

分類：臨床医学IV (CC1)  
授業科目名：小児外科学 臨床実習 (BSL in Pediatric Surgery)  
対象学年：4年次必修  
時間割コード：71643002-23

1. 主任教員

水野 大 (病院教授、小児外科学講座、3447、オフィスアワー：水曜日 15時～16時)

2. 担当教員

水野 大 (病院教授、小児外科学講座、3447、オフィスアワー：水曜日 15時～16時)

森井 真也子 (医学部講師、小児外科学講座、6141、オフィスアワー：火曜日 15時～16時)

渡部 亮 (助教、小児外科学講座、6142、オフィスアワー：金曜日 15時～16時)

東 紗弥 (医員、小児外科学講座、6141、オフィスアワー：木曜日 15時～16時)

山形 健基 (医員、小児外科学講座、6143、オフィスアワー：金曜日 15時～16時)

林海斗 (医員、小児外科学講座、6143、オフィスアワー：木曜日 15時～16時)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の狙い (大まかな全体目標)

チームの一員として病棟や外来患者さんへの診療を通して、将来どのような分野の医師にも必要な小児領域、特に外科疾患を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実践力を習得する。また、関連するプロフェッショナルリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法(制度)、EBMを活用した総合的な判断、ICTの適切な活用について実践的に学ぶ。

2. 概要 (大まかな学習目標)

小児外科疾患の診療に関する基本的な知識と技能を習得するために、指導医を中心とした医療チームの一員として能動的に実習に取り組む。(1-1～1-2、2-1～2-6、3-7、5-1～5-4、6-1～6-2)

臨床実習の中で自ら情報を収集し、患者さんと親御さんのニーズ・問題点の抽出、整理、解釈を行い(臨床的推論)、解決法(診断、治療)を立案するための基本的訓練を行う(problem based learning; PBL)(1-1～6-2)

診療チームの日常診療に参加し、小児外科疾患の診察、検査、治療の実際を体験し、ポートフォリオを作成する。(1-1～1-2、2-1～2-5、4-1～4-7)

1) 病棟診療

各学生は2週間配属され、指導医の下、病棟の入院患者さんを毎日回診して、診療内容をカルテに記載する。指導医の監督のもとに医療面接、身体診察を行うとともに処置を見学して、問題を抽出し、作業仮説を立ててEBMに基づいた検証を繰り返す。臨床推論に基づいて、診断、鑑別に必要な検査を立案し、患者さんの状態を勘案して治療方針の選択を試みる。他科頼診券、紹介状などの作成、症例検討会でのプレゼンテーション、患者・家族への説明への参加など、診療チームの一員として基本的な診療を実践的に学び、医師としてのプロフェッショナルリズムを身につけるために必要な知識、学習プロセスを身につける。(1-1～1-2、2-1～2-7、3-1～3-7、4-1～4-8)

2) 外来診療

外来診療への参加機会は手術や検査のない時間に限られるが、医療面接、身体診察を見学し、小児の特殊性を理解する。(2-1～2-7、3-1～3-3、3-5～3-6、4-1～4-2、4-6)

3) 各種検査・手術など治療への参加

診療チームの一員として各種検査、手術をはじめとする治療に参加あるいは見学しながら臨床推論・検査・手術の実際を経験し、検査成績の評価を自ら試みるとともに、治療(手術)の目的、妥当性について理解する。(3-1～3-3、3-5～3-6、4-1～4-7)

### 3. 詳細な学習目標・項目

上記1のねらい・概要を中心に実習をすすめるが、本診療科で経験し得る症候、病態、各種手技などの内容を下記に示す。

#### 1) 症候・病態 臨床推論 (3-5、4-1~4-6)

(1) 腹痛 (2) 呼吸困難 (3) 発熱 (4) 悪心・嘔吐 (5) 食欲不振 (6) 嚥下障害 (7) 吐血・下血  
(8) 便秘・下痢 (9) 腹部膨満 (10) 腫瘤 (11) 黄疸 (12) 脱水

#### 2) 基本的臨床手技 (3-1~3-3、3-5、4-1~4-7)

(1) 体位変換、移送ができる (2) 皮膚消毒ができる (3) 静脈採血を見学する (4) 末梢静脈の血管確保を見学する (5) 中心静脈カテーテル挿入を見学する (6) 胃管の挿入と抜去を介助する (7) 尿道カテーテルの挿入と抜去を見学し、介助する (8) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する (9) 全身麻酔、局所麻酔、輸血を見学する (10) 診療録を作成する (11) 各種診断書・証明書の作成を見学する

#### 3) 検査・治療手技 (3-1~3-3、4-1~4-7)

(1) 腹部の超音波検査を見学し、介助する。  
(2) エックス線撮影、コンピューター断層撮影 (CT)、核磁気共鳴画像検査 (MRI)、核医学検査、内視鏡検査、直腸肛門内圧検査を見学し介助する。  
(3) 無菌操作を実施できる。  
(4) 手術や主義のための手洗いができる。  
(5) 手術室におけるガウンテクニックができる。  
(6) 症例によっては抜糸ができる。  
(7) 創の消毒やガーゼ交換の介助ができる。  
(8) 手術、術前・術中・術後管理を見学する。

#### 4) プロフェッショナリズム、医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (制度)、EBM について (1-1~1-2、2-1~2-7、3-1~3-7、4-1~4-7、5-1~5-5)

(1) 各種検査・治療のインフォームドコンセントを見学する。  
(2) 疾患の病態や疫学を理解する。  
(3) インペアメント、ディスアビリティ、ハンディキャップを説明できる。  
(4) 患児の生活環境などを総合的にみて診療計画を検討できる。  
(5) 感染防止対策を説明できる。  
(6) 身体障害者福祉法を概説できる。  
(7) 各種診療ガイドラインなど必要な情報を、ICT を活用して検索できる。  
(8) 文献から得られた情報の批判的吟味ができる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

### 4. 教科書・参考書

3年次「成長と発達」講義資料  
標準小児外科学 (医学書院)  
スタンダード小児外科手術 (メジカルビュー)  
スタンダード小児内視鏡外科手術 (メジカルビュー)

### 5. 成績評価の方法

態度、口頭試問 (実習中随時行われる質疑応答)、CC-EPOC 入力状況、ミニ CEX、レポート、出席で総合評価する。

### 6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

基礎医学で学ぶ人体発生学、解剖学、生理学を復習しておくこと。

3年時に講義した成長と発達を復習しておくこと。

適宜、診療録を記載し、指導医によるフィードバックを確認して追記・訂正を行うこと。

実習終了後に自己評価表、臨床実習評価シート、レポートを医局秘書に提出する。

小児外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [ 8:15-17:30 ] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	オリエンテーション (8:15 ~ ) 朝回診 (8:20 ~ ) 手術 (9:00 ~ ) 夕回診 (16:00 ~ ) 抄読会・症例検討会 ( 16 : 30 ~ 17 : 30 )
第 2 回 火曜日 [ 8:15-17:30 ] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15 ~ ) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00 ~ ) 小児科、産科との合同カンファランス ( 17 : 00 ~ 17:30 )
第 3 回 水曜日 [ 8:15-17:00 ] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15 ~ ) 手術 (9:00 ~ ) 夕回診 (16:00 ~ )
第 4 回 木曜日 [ 8:15-17:00 ] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15 ~ ) 検査 夕回診 (16:00 ~ )
第 5 回 金曜日 [ 8:15-17:00 ] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15 ~ ) 検査 医学医療総合講義 ( 14:20 ~ )
第 6 回 月曜日 [ 8:15-17:30 ] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15 ~ ) 手術 (9:00 ~ ) 夕回診 (16:00 ~ ) 抄読会・症例検討会 ( 16 : 30 ~ 17 : 30 )
第 7 回 火曜日 [ 8:15-17:30 ] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15 ~ ) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00 ~ ) 小児科、産科との合同カンファランス ( 17 : 00 ~ 17:30 )
第 8 回 水曜日 [ 8:15-17:00 ] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15 ~ ) 手術 (9:00 ~ ) 夕回診 (16:00 ~ )
第 9 回 木曜日 [ 8:15-17:00 ] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15 ~ ) 検査 夕回診 (16:00 ~ )
第 10 回 金曜日 [ 8:15-17:00 ] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15 ~ ) 検査 医学医療総合講義 ( 14:20 ~ )